

13. 鹿嶋吉田神社

御祭神は鹿嶋神社が武甕槌命（タケミカツチハコト）、吉田神社が日本武命（ヤマタタケルハコト）です。かつて古高には 国上神社と鹿嶋神社をひとつにした社殿がありました。それが鹿嶋神社だけ今の場所に移され、それぞれ独立した神社になったという珍しい由緒です。鹿嶋神社は大同元年（806年）の創建と極端に古いですが、周辺情報から考えると14世紀頃だった可能性が高そうです。吉田神社の創建も古く年代は不詳となっていますが、元の鎮守地は諏訪ヶ原（現在延方ウエルシア）で洲崎村の産土神（うぶすながみ）でした。

鹿嶋神社と吉田神社は水戸藩の寺社改革「一村一社」の政策により元禄9年（1696年）現在地新宮に御遷宮、相殿となりました。水戸藩の寺社改革では八幡宮を取り潰して鹿嶋神社や吉田神社、静神社に改めることがありました。元からの名称が鹿嶋神社や吉田神社であれば相殿で残しかったのでしょうか。



延方相撲

江戸時代徳島一帯では漁場をめぐる紛争や農耕地の利権論争、耕作権の問題など紛争が絶えませんでしたが、寛文12年(1672年)7月27日この紛争に対して江戸幕府評定所より「この地は水戸南領に属す」という裁決がありました。村人はこれを喜び合い、寛文13年(1673年)相撲祭を延方村鎮守鹿嶋吉田神社に奉納したことにより江戸勧進相撲の格式をもって今日に伝えられています。

現在は毎年7月の最終日曜日に開催されています。



この相撲祭は、祭礼の日までの約1ヶ月前から種々の行事が始まられ、当番地区においては6月の見届け行事に始まり、神前会議、当番詔家開き、衣装揃え、地取り祭まで地区総がかりで行われます。祭礼の当日、早朝より当番地区から神社までは宮行司、警護、世話人、総代、花相撲と古式ゆかしい行列によってくり出されます。

延方相撲は鹿嶋吉田神社の祭礼として開かれる行事で、300年以上の歴史を数え、県の無形民俗文化財に指定されています。地元にゆかりのある未就学児童が取り組みを行う「花相撲」で始まります。泣き出したり土俵から降りてしまったりドキドキハラハラする取り組みは必見です。その後は神社境内に築かれた土俵で「二番勝負」「一番勝負」「新手二人がかり」「小三番」「大三番」など古式の取り組み48番がとり納められます。